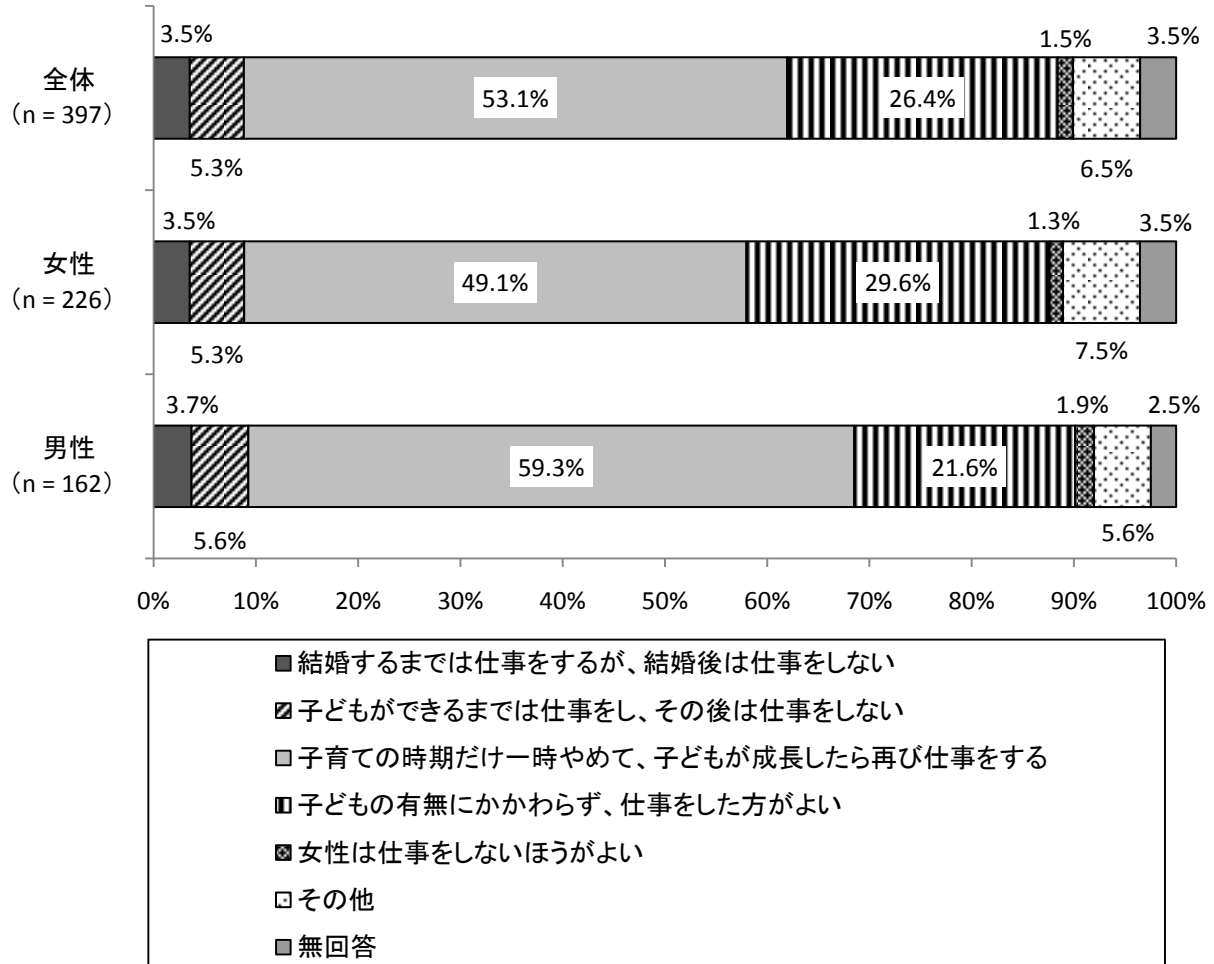


問 11 女性の働き方について、あなたが望ましいと思うのは次のどれですか。(〇は1つ)

【希望・全体】



全体で見ると、「子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする」が53.1%と最も多く、次に「子どもの有無にかかわらず、仕事をした方がよい」が26.4%である。

性別にみると、女性は「子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする」が、49.1%で男性は59.3%と女性より多くなっている。

年代別にみると、男女ともにどの世代でも「子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする」が最も多い結果（20代女性は「子どもの有無にかかわらず、仕事をしたほうがよい」と同数）となっており、特に男性30代では81.8%に上っている。また、女性の全ての年代と男性の40～70代で「子どもの有無にかかわらず、仕事をした方がよい」と答える人が20～30%おり、男女とも“女性も仕事をした方がよい”と考える人が多いことがわかった。

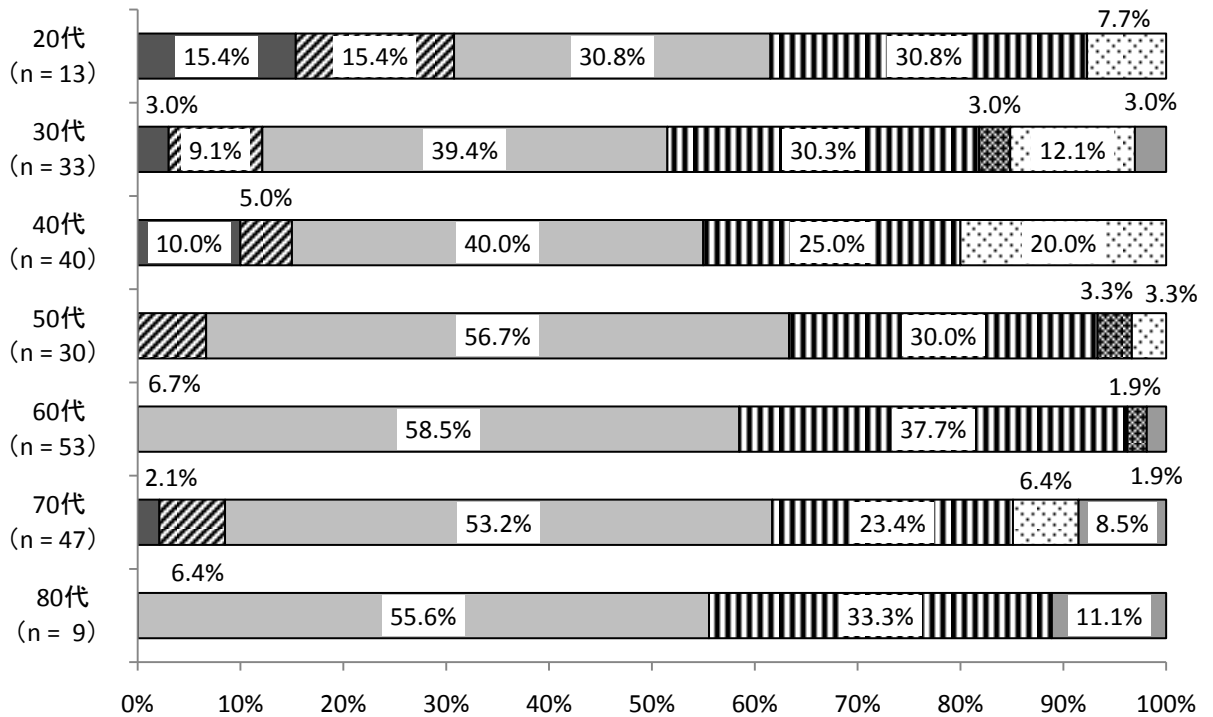
平成19年度に実施した意識調査では、「結婚・出産にかかわらず、ずっと仕事をする」ことが望ましいと答えた女性は14.2%で、今回と比較すると15.4ポイント高くなった。

また、「子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする」は61.9%で、今回と比較すると12.8ポイント低くなった。

「ずっと仕事をする」女性の働き方が望ましいと思う女性が増えた。

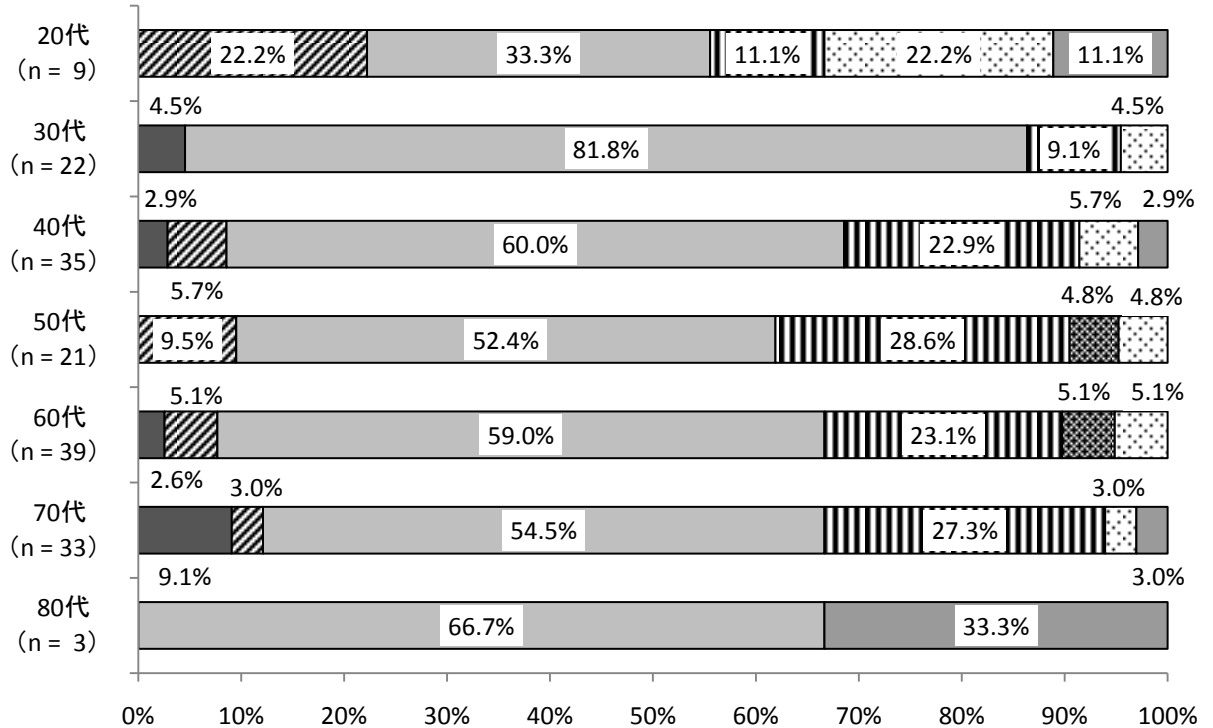
【性・年代別】

【女性】



- 結婚するまでは仕事をするが、結婚後は仕事をしない
- ▨ 子どもができるまでは仕事をし、その後は仕事をしない
- 子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする
- ▤ 子どもの有無にかかわらず、仕事をした方がよい
- ▩ 女性は仕事をしないほうがよい
- その他
- 無回答

【男性】

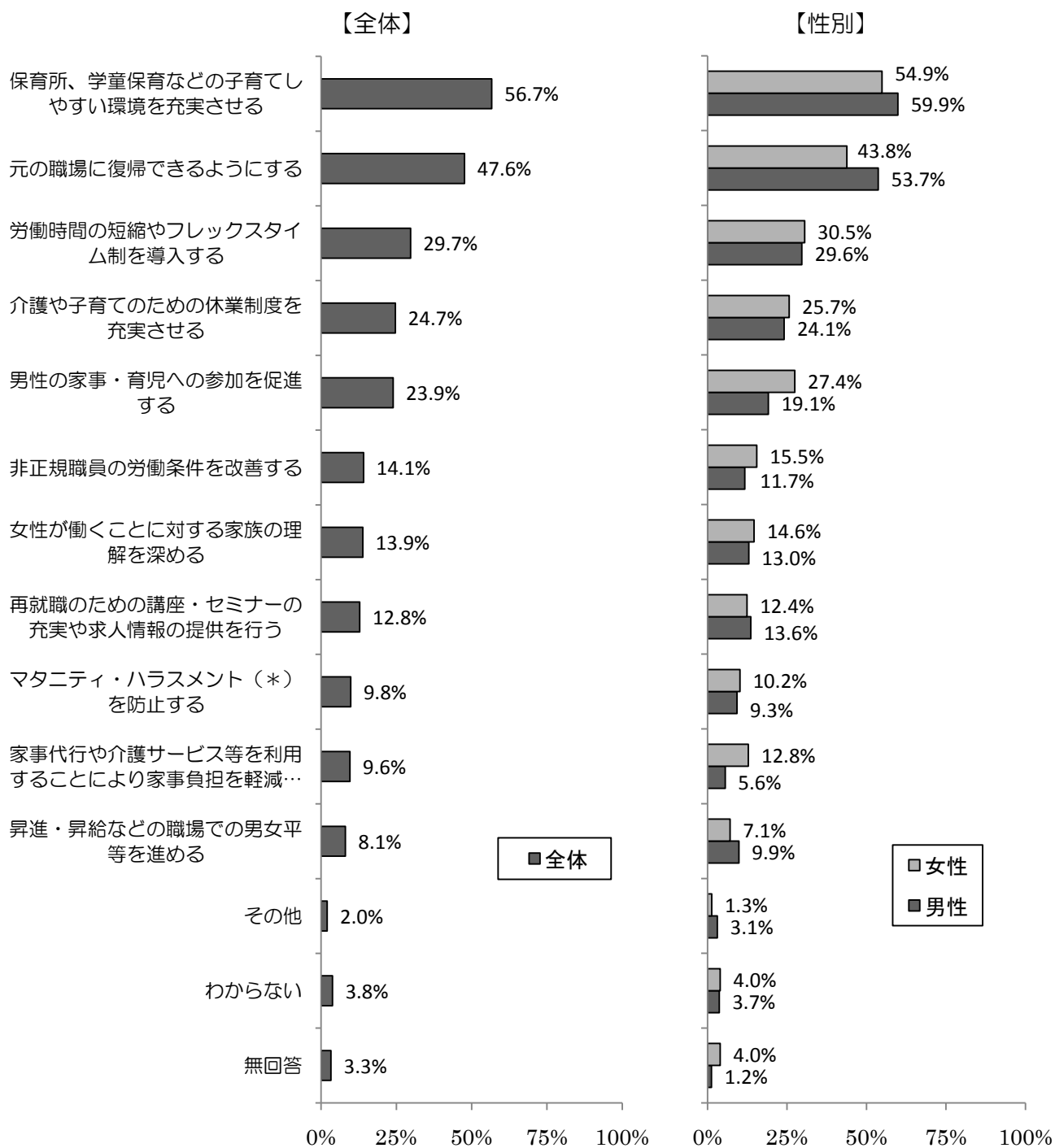


- 結婚するまでは仕事をするが、結婚後は仕事をしない
- ▨ 子どもができるまでは仕事をし、その後は仕事をしない
- 子育ての時期だけ一時やめて、子どもが成長したら再び仕事をする
- ▤ 子どもの有無にかかわらず、仕事をした方がよい
- ▩ 女性は仕事をしないほうがよい
- その他
- 無回答

<「その他」の回答>

- ・別段、決める必要はない。仕事をしたい（できる）時に無理ない仕事を得られる環境がほしい。
- ・女性自身がそれぞれ自分の希望に従って仕事ができる。結婚で辞めるもよし、出産で辞めるもよし、その後復帰する、しないも個人の希望により選択できることが望ましい。
- ・もう一度人生をやるとすれば、仕事をして自立していたい。
- ・子育てや、家事と仕事にどんな差があるのかわからない。
- ・男女、子どもの有無にかかわらず仕事をしたい人は、すればいいし、したくなくてしなくても生活できる人はしなくてよいと思う。
- ・子どもの心身共に成長する一般的には3歳くらいまでは、親子関係をしっかり築いて人格形成をしてほしい。
- ・仕事を続けても結婚・育児に支障がなく、仕事を辞めても結婚・育児に不安のない状態。
- ・女性だからという考えはない。
- ・私は心身障害者ですが、こういう人でも働ける職場がほしい。（例）作業所など…
- ・それぞれの家庭の事情があるから、何とも言えない。
- ・分らない。女性だけでなく社会全体が仕事の量を減らすべきと思う。もし、男女平等に近付けるのであれば、体力の弱い女性に合わせた労働問題にするべきだと思う。
- ・どちらでも、その人に合った生き方で良いのでは、どちらがよいと人に言われるものではないと思う。
- ・子育てをしたくないので、働く、仕事ににげる。
- ・本人の意思を尊重する。
- ・個人の考え方が違うのでその人に合った行き方を選択すれば良い。
- ・個人、夫婦の自由である。
- ・個人の自由。2
- ・夫の収入だけでやっていけるなら自由でよいと考える。
- ・両立は難しく両方中途半端になる。子どもをしっかりと育てないと自己中心的なろくな大人にしかならない。
- ・本人の希望。
- ・その人が好きなまたは合ったようにしたらいいと思う。
- ・相手次第で、どのスタイルでも良い。
- ・好きな仕事で続けたいと考える人は続けられればいい、やめたい人は働かなくて自由に選べばいいと思います。
- ・仕事をしたければ仕事をすればよい。本人しだい。

問 12 現状、女性は結婚や出産を機に仕事を辞める人が多いですが、あなたは、女性が働き続けたり、結婚・出産等の後に再就職しやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

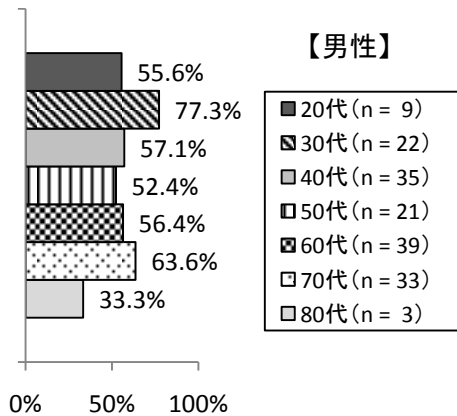
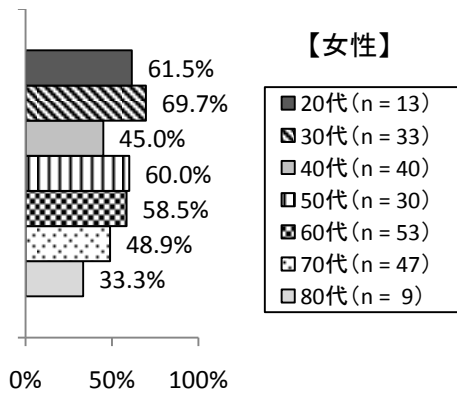


全体、性別ともに「保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を充実させる」が最も多く、全体で56.7%、女性で54.9%、男性は59.9%となっている。次いで「元の職場に復帰できるようにする」が多くなっている。

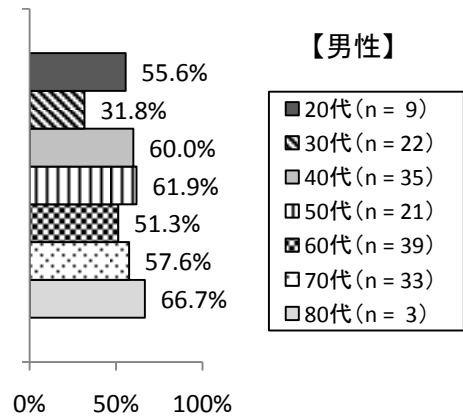
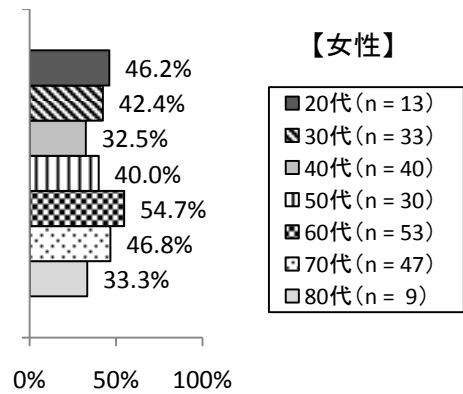
(*) マタニティ・ハラスメントとは
妊娠・出産したことが業務上支障をきたすという理由で、精神的・肉体的嫌がらせを行い、退職を促す行為のこと。

<性・年代別>上位4項目

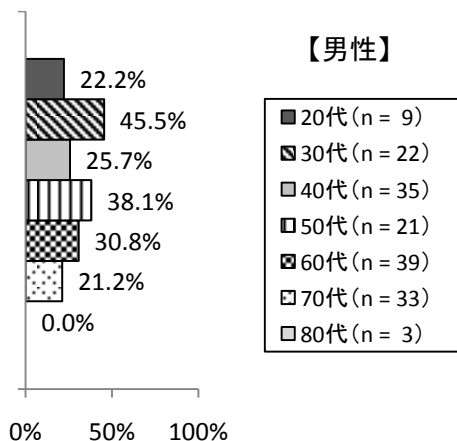
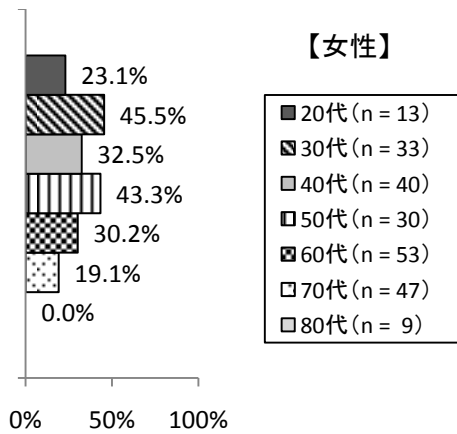
保育所、学童保育などの子育てしやすい環境を充実させる



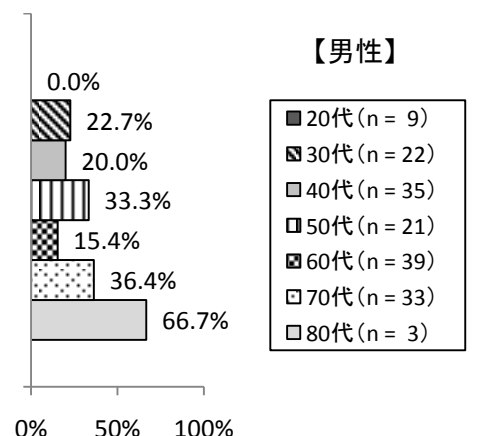
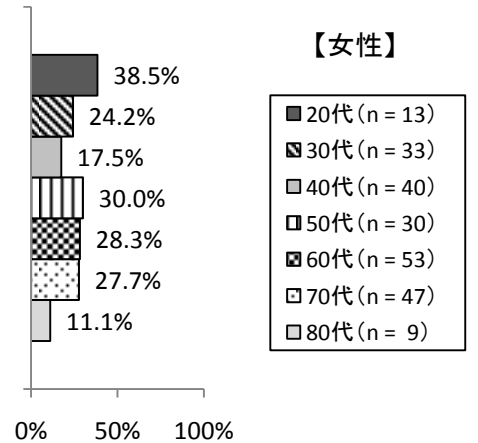
元の職場に復帰できるようにする



労働時間の短縮やフレックスタイム制を導入する



介護や子育てのための休業制度を充実させる



<「その他」の回答>

- ・復帰した時に、自宅からの距離、勤務時間、内容が合う仕事を照会できる。以前の仕事をいかしたい場合は、7, 8番
- ・マタニティ・ハラスメントは、しかたない?仕事で迷惑がかかる事がある。
- ・子どもが病気等で預ける人がいない場合、ベビーシッター等の費用が高いと思う。
- ・出産・育児の負担に対する理解の深い社会をつくる。
- ・問11の回答に同じ(子育てや家事と仕事にどんな差があるのかわからない)。くだらない。
- ・権利ばかりで、義務を忘れているからおこる。
- ・短い時間での労働形態・条件など新しく設け労働基準法に組み込む。
- ・好景気の人不足(バブルの時の人集めのための充実ぶりを復活してほしい)。その人しかできない専門性を得られる様、小中の教育の段階から支援してほしい。取り換えのきく人材だとそく切られるだけ。

